

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成27年7月13日 NO.42 (242)

モンタ博士「ねえねえ、花ちゃん！右の絵はどこか
おかしいんだけど、わかるかな。」

花ちゃん「おかしいというよりも、こんなことを
したら、バッタがかわいそうですよ。」

オー君「そんなことないよ。バッタは
おぼれたりしないんだよ。」

モンタ博士「そのとおり。どうしてなのか。
わかるかな？花ちゃん。」

(注：今の季節は、これほど大きいトノサマバッタはまだいません。)

花ちゃん「分かりません。口で息ができなくてとてもかわいそうです。」

オー君「バッタは、死んだりしないんだよ。ねー！モンタ博士。」

モンタ博士「花ちゃん！バッタは、人とちがって口では息をしないんだよ。」

オー君「そうなんだ。すべての昆虫は口ではなく、おなかのところにある気門とよば
れている場所から空気の出し入れをしているんだ。」

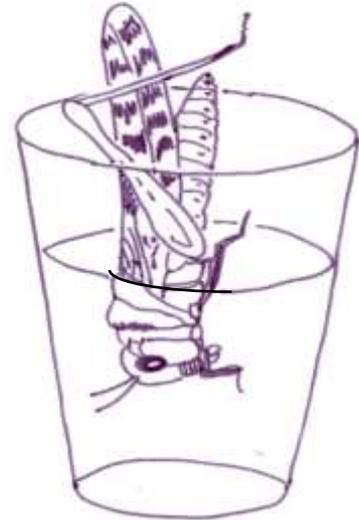
花ちゃん「そうなの、それじゃ頭でなく、おなかの方を水に入れば死んじゃうわけね。」

オー君「ところが、それでもなかなか死なないよ。どうしてかというと、バッタの体
の中には空気がいっぱい詰まれているからさ。」

モンタ博士「それで、体が軽くなって空を飛べるというわけさ。昔、『モナリザのほほえ
み』で有名なレオナルド・ダ・ビンチという人が、鳥のように大空を飛びた
くて、羽を使って実験してみたんだけど、けっきょく飛べなかったのは、
人間が重すぎたからなんだよ。」

花ちゃん「なーるほど。よく分かりました。ところで、バッタって、どんな種類の
バッタがいるのですか。」

オー君「その前にさ、花ちゃんの知っているバッタって、どんなのがあるの。」



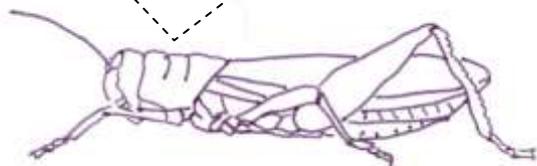
花ちゃん 「トノサマバッタでしょ。それから、イナゴ、ショウリョウバッタ、あとは？
あれ、みんな緑色をしている虫だわ。バッタの特徴というのは、緑色というわけなのね。」

オー君 「そうとは限らないよ。スズムシだって、コオロギだってバッタの仲間だぜ。」

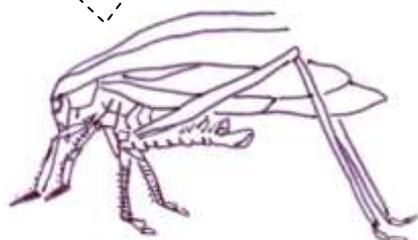
モンタ博士 「それでは、ここで、バッタの仲間はどんな特徴があって、どんな仲間がいるかをもう一度お勉強しよう。そうだ！オー君に説明してもらおう。」

オー君 「えっへん。まず第一の特徴はですね、はねるための長くて大きくてじょうぶな後ろ足をもっていることだね。それから、不完全変態といって、チョウやクワガタみたいにさなぎにはならないで、幼虫と成虫がよく似ているんだ。大きく分けて、バッタ、キリギリス、コオロギの3つの仲間になるんだ。」

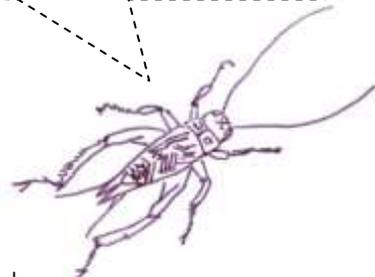
私はバッタです。丸いつつのような形のものが多くいます。



おいらはキリギリスだ。お菓子の箱を立てたような形なのだ。



おれはコオロギだ。お菓子の箱をそのまま置いた形だね。



モンタ博士 「バッタの仲間は昼間に動くものが多くて草食。触角も短いんだ。ところが、キリギリスやコオロギの仲間は、夜行性で肉食・雑食のものもいて、触角は長いんだ。それに、羽をこすり合わせて鳴く虫も多いね。」

花ちゃん 「ふーん。なるほど、よくわかりました。」

モンタ博士 「今、国立七小の子供達がいっぱいのバッタの仲間を見つけて、お教室で飼っているよ。」

オー君 「ねえ、花ちゃん。あちこちの教室に行こう。」

花ちゃん 「そうしましょう。そうしましょう。レッツ・ゴー！」

飛び跳ねる虫の世界チャンピオンは？

ノミバッタというバッタは体長5ミリほどで、飛ぶ事はできないが、跳躍力はとても強く、体長の200倍は跳ねると言われています。人間の体長を1.5mとして考えた場合、約300m跳ねる計算になります。走り幅跳びをやったら、世界チャンピオンになること間違いありません。スーパーマンも真っ青、スパイダーマンも負けちゃうでしょう。なお、ノミバッタは、後ろ足だけが異常に発達しており、砂地に生息。